

2021 ・ 令和3年共通テスト1回目漢文解説(本試験) 準拠『早覚え速答法』

※⁴は『早覚え』マニュアルの4ページ、185は『早覚え』の185ページ、I¹は問題文Iの1行目を示す。

【問題文I】

〔出典〕北宋の欧陽脩(おうようしゅう)『欧陽脩文忠公集』

〔書き下し文〕※音読のためルビと送りがなの歴史的かなづかいは今のかなづかいに変更。

吾に千里の馬有り 毛骨何ぞ蕭森(しょうしん)たる

疾(はや)く馳(は)すれば奔風(ほんふう)のごとく 白日(はくじつ)に陰を留むる無し

徐(おもむ)ろに駆(か)くれば大道に当たり 步驟(ほしゅう)は五音(ごいん)に中(あ)たる

馬に四足有りと雖(いえども) 遅速(ちそく)は吾が心に在り

六轡(りくひ)は吾が手に応じ 調和すること瑟琴(しつきん)のごとし

東西と南北と 山と林とを高下(こうげ)す

惟(た)だ意の適(ゆ)かんと欲する所にして 九州周(あまね)く尋(たず)ぬべし

至れるかな人と馬と 両楽相侵さず

伯樂は其の外(そと)を識(し)るも 徒(ただ)だ価(あたい)の千金なるを知るのみ

王良は其の性(せい)を得たり 此(こ)の術固(もと)より已(すで)に深し

良馬は善馭(ぜんぎよ)を須(ま)つ 吾が言(げん)箴(しん)と為すべし

〔現代語訳〕()内は訳者の補足。

すばらしい馬を飼っている 体はキリリとひきしまり、毛なみは最高に美しい

早駆(はやが)けすればまるでつむじ風 太陽が作る影は止まらない

並足(なみあし)ならば広い道がふさわしく 足音は音階を奏(かな)でる

見事な足なみだが その速さは私の心次第

操る六本の手綱(たづな)は 大小の琴の和音のようだ

東西南北 山を登り林に下(くだ)る

行先を思うだけで中国全土どこでも行ける

人も馬も互いに邪魔することなくその楽しみを尽くす

伯樂は外面を知るが 高価だとわかっているだけ

王良は本質を理解し この技術の根本をつかんでいる

すぐれた馬にはすぐれた御者が不可欠だ このことを心に刻め

※訳注

千里馬―一日に千里も走る優秀な馬

陰―日光によってできる影。2行目は直線的な速さを強調し、次の行はゆったりとした世界の広がり強調するという対比。

当(あ)たり―適當、相当

五音に中(あ)たる―「五音」は中国の5音階(宮―商―角―徵―羽)。なお、ドレミファソラシは7音階。「五音に中(あ)たる」とは足音がド・レ・ミ・ファ・ソのような音階を奏(かな)でること。

六轡(りくひ)―調和―「六轡」は6本の手綱(たづな)。一頭あたり2本の手綱を使うので、四頭立ての場合は8本、図のように1頭の場合は2本だが、文学上は「六轡(りくひ)」と表現する。複数の手綱をさばく様子を、大小さまざまの琴の音が和音になることにたとえている。

惟(た)だ意の…―書き下し文は問4の正解に従ったが、直訳すると不自然な文になる。そこで、読み方を「惟(た)だ適(ゆ)かんと欲する所を意(おも)うのみにて」に変えて訳文を作った。詳細は問4の解説参照。

外―外面

性―本性、本質。伯樂と王良を対比し、後者を高く評価している。

須(ま)つ―必須、必要不可欠。「まつ」と訓読するが、「待つ」と異なり、「なくてはならない」の意味。

箴(しん)―教訓、訓戒、いましめ。

【問題文Ⅱ】

「出典」『韓非子』戦国末期の法家の書¹⁸⁵

「書き下し文」

凡(およ)そ御(ぎよ)の貴(たつと)ぶ所は、馬体(ま)車(くるま)に安(やす)んじ、人心(にんしん)馬(うま)に調(た)かない、而(しか)る後(のち)に以(もつ)て進むこと速(すみ)やかにして遠(とほ)きを致(いた)すべし。今(いま)君(きみ)は後(おく)るれば則(すなは)ち臣(しん)に速(およ)ばんと欲(ほつ)し、先(まづ)ずれば則(すなは)ち臣(しん)に速(およ)ばるるを恐(おそ)る。夫(そ)れ道(みち)に誘(すす)めて遠(とほ)きを争(ま)ふは、先(まづ)ずるに非(あら)ざれば則(すなは)ち後(おく)るるなり。而(しか)うして先(まづ)後の心(こころ)は臣(しん)に在(あ)り。尚(な)ほ何(なに)を以(もつ)て馬(うま)に調(た)かなはん。此(こ)れ君(きみ)の後(のち)に速(おそ)るる所以(ゆえん)なり。

「現代語訳」()内は訳者の補足。

問題文は次の論理構成を取るので、訳文に見出しをつけた。

a 凡(およ)そ 前提となる一般原則

b 今(いま) 問題となる事実

c 夫(そ)れ 分析

d 此(こ)れ…所以(ゆえん) 結論||事実の理由

a 一般原則

一般に、馬車の操縦で大事な点は、馬の体が車になじんで安定し、人の心が馬と調和することであり、そうすれば速く遠く行くことができます。

b 問題となる事実

いまあなた様は、遅れると私に追いつこうとし、先行すると私に追いつかれることを恐れます。

c 分析

そもそも、馬を御(ぎよ)して距離を競う場合、前にいなければ後(うしろ)になります。そして前にいるかないかの心は私にあります。ほかに何を馬と調和させるのですか。(何もありません。)

あなた様が遅れるのはこのためです。(前にいる心だけでなく、他のことを考えるからです。)

※訳注

速(およ)ぶ―追いつく

誘道―誘導

【解説】※本番での説き方を再現するので、解答の順は前後する。

筆者の主張をつかむ 目4

ステップ1―最初の2行を読む 問題文IⅡ1行 問題文ⅡⅡ1行

説明・注で正解つかめ！176

により問題文IⅡの最初の1行を説明文「馬車を操縦する」と(注)12で補うと次のとおり。※理解のため、歴史的かなづかいは今のかなづかいに変更し、一部の漢字はひらがなとした。

I 吾(われ)に千里の馬あり 馬の毛並みと骨格 何 ひきしまつて美しい

Ⅱ 凡(およ)そ馬車を操縦する御(術)の尊ぶところは 馬体 車に安んじ、人心馬に調(かな)い、而(しか)る後に以(も)つて進むこと速(すみ)やかにして遠きを致(いた)すべし。

ステップ2―最後の3行を読む

問題文Iの最後の1行と問題文Ⅱの最後の2行を、説明文「王良は襄主に仕える臣：襄主が王良に馬車の駆け競(くら)べを挑み：勝てなかった」および(注)10で補うと次のとおり。

I 良馬はすぐれた御者を須(ま)つ 吾が言 いましめと為すべし

Ⅱ (馬車の駆け競くらべの)先後の心は臣(王良)にあり。尚(な)お何を以(も)つて馬に調(かな)わん。此れ君(襄主)の後(おく)るる(競争で勝てなかった)所以(ゆえん)重要漢字…理由)なり。

ステップ3——最後の問6の選択肢を見る

三つのステップで共通する言葉を探すと、次のように「内が同じだ。

ステップ1 a「馬の毛並みと骨格…ひきしまつて美しい」

ステップ2 b「人心 馬に調(かな)い」

ステップ3 ③ a「すぐれた馬」 b「(人が)馬と一体となって走る」

aとbについてはそれぞれ次のとおり。なお、「熟語による翻訳」で正解つかめ！ニにより、「調(かな)う」の意味に近い二字熟語は「調和」とした

a 馬の毛並みと骨格(は)ひきしまつて美しいニすぐれた馬

b 人心 馬に調(かな)い

—

人(の)心(が)馬に調和しニ(人が)馬と一体となって走る

正解候補は③であり、筆者の主張の一部は、「馬車を操縦する『御術』においては」「すぐれた馬を選ぶだけでなく馬と一体となって走ることも大切である。」だろう。これで十分。これが大事。ここで

退却ルールヨ 三分以内に主張をつかむ作業をやめて最初にもどる

を実行し、あとは、「すぐれた馬を選ぶだけでなく馬と一体となって走る」を念頭において読んでいく。

問2(1)〔主張〕

「何」一字が問われたら「読み…なにをか 意味…なにを」だが、選択肢にない。

主張の一部は「すぐれた馬」問6③なので、「馬の毛並みと骨格(が)何(なん)とひきしまつて美しい(ことか)」と読むと主張と合致する。したがって正解は⑤「なんと」だろう。

この「何」は「なんて〜ことか。とても〜」という意味だが覚える必要はない。主張をつかめば解けるようになっていく。

問3〔対比〕〔主張〕〔3〕

対比に注意¹¹⁶すると、

傍線部Aと筆者の主張の一部は、次のようにxとyの対比になっている。

傍線部A

x 馬に四足有(あり)

と雖(いえども)

y 遅速は吾が「X」あり

筆者の主張の一部

x すぐれた馬を選ぶ

だけでなく

y 馬と一体となつて走ることも大切

＝

人心|馬に調(かない)II

したがって「X」は②「心」が正解か。

偶数句末の母音をそろえる押韻¹¹⁸で確認しても、森^{su}、陰ⁱⁿ、音^{on}、心^{shin}、琴^{kin}(以下略)となり、¹¹⁹が母音なので②の正解は問題なし。

問4〔注〕〔漢〕

音読¹²⁰して漢文に慣れていないと難問。

『早覚え速答法』¹²¹で暗唱用に用意した「出(い)づる所を知らずして考試に通らんと欲(ほ)するは…」という文に読み慣れていれば、

・ 「所(ところ)」は「所^レA || Aする所」

・「欲」は「欲_レB || B(せんと欲(ほこす)だから、正解は④「所_レ欲_レ適」か。

選択肢④および傍線部Bの次の句を訳して確認すると次のとおり。

④ 惟(た)だ意の適(ゆ)かんと欲する所にして

← ただ意識が行こうと望む場所であつて

※「欲」は「熟語による翻訳」I10を使って「欲↓欲望↓望」と訳した。

傍線部Bの次の句は

説明・注で正解つかめ！I76

により注7を使うと、

中国全土 尋(たず)ねる(ことが)できる

※傍線部Bの「可(べ)し」は「〜できる」↓重要漢字I39

※「周」は問題部分なので省略。

選択肢④に続けると次のとおり。

ただ意思が行こうと望む場所であつて④、

中国全土(どこでも)尋(たず)ねる(ことが)できるI7

日本語として少しおかしいが許容範囲なので④が正解。

「補足」私にとっては難問だった。

最初私は、「ただ適(ゆ)かんと欲(ほこ)する所を意(おも)うのみにて

惟意 たぐおもフノミニテ ヲ スル ユカント 所_レ欲_レ適」ヲと訓読した。この読みだと、

ただゆかんと欲するところをおもうのみにて

← 訳

行こうと望む場所を意識するだけで、

中国全土(どこでも)尋(たず)ねる(ことが)できるI7

のように傍線部Bと次の句が自然な日本語に訳せる。ところがこの読み方が選択肢にないので、しばらくとまどい、やむを得ず、「所_レ欲_レ適」とする④を選んだ。

なお、「惟(た)だ」は通常「惟(た)だ_くのみ」と訓読するが、選択肢④の読みだと「のみ」と読むべき場所がない。

問2(2)〔注〕〔熟〕

波線(2)を含む句は

説明・注で正解つかめ！176

により注7を使うと、

中国全土 周 尋(たず)ねる(ことが)できる

したがって、正解候補は次の二つだろう。

中国全土 あらゆるところに③尋(たず)ねる(ことが)できる

中国全土 はるか遠くより⑤尋(たず)ねる(ことが)できる

次に、「熟語による翻訳」Eによる「周」を含む熟語を作って考える。たとえば「周知徹底」の場合、「みんなに知らせる」なので「遠くから知らせる」のではない。したがって

みんな_レすべて_レあらゆる

なので③が正解。

なお、「周・あまねく」という読みを知っている必要はない。知識は最小にとどめ、あとは考えて勝負しよう。

また、「周知」は「周(あまね)く知らせる」ので「周_レ知」ではない。「ほぼ同じ意味の漢字で熟語を作る」Eによる原則ではなく、その応用だ。考えて原則を応用することも共通テストでは必要だ。

問2 (3)〔漢〕

「与_レ」と「154」なので、波線(3)と次の句は次のとおり。

至哉 人と馬と両方の**楽**しみ相(あい)侵(おか)さず

「**楽**しみ_レ感情」なので、正解候補は②「気持ち」か④「境地」。「人と馬と両方の」なので、②「人の」だけしかないのがキズとなり、④が正解。

問1 (ア)〔ノミ〕

「徒」は「ただ_レ(のみ)」95なので①「只(ただ)」。

問1 (イ)〔漢〕

「固」は「もとより」161なので⑤「本(もと)」。

問5 (熟)〔於〕

「逮」は「熟語による翻訳」170を使う。「逮捕」という二字熟語は「逮_レ捕」だから、「逮」の意味は「捕(と)らえる」。選択肢でこれに近い訳語は②④⑤「追いつく」。

次に、「逮_二于_一臣」において「于_レ於」55。「於」の上は動詞「逮(捕)」だから、受身₆となり「れる、られる」のある⑤「追いつかれる」が正解。

問6 (主張)

ここまで解いた段階で、問題文Ⅰの9-10行目と問題文Ⅱの2行目は読んでいないが、特に問題がないので、最初の作業でつかんだ③を正解としておく。本番で時間があれば全部読んで確認できるかもしれない。しかしそのような受験生はわずかだ。

以上